

総務常任委員会記録

平成 30 年 4 月 10 日(火)午後 1 時 28 分～午後 2 時 30 分(9 階 909 会議室)

○出席委員(8名)

委員長	小松 良行	副委員長	阿部 亨
委員	萩原 太郎	委員	羽田 房男
委員	小野 京子	委員	土田 聡
委員	粕谷 悦功	委員	宍戸 一照

○欠席委員(なし)

○議題

所管事務調査「消防団の充実強化に関する調査」

1. 委員長報告のまとめについて
2. その他

午後 1 時 28 分 開 議

(小松良行委員長) それでは、ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

議題は、お手元に配付の印刷物のとおりでございます。

初めに、委員長報告のまとめについてを議題といたします。これまでの委員会での皆様のご意見を踏まえ、正副手元で委員長報告の骨子案を作成いたしました。お手元に配付しておりますけれども、今急に手にとったわけでございますので、読む時間を少しとりたいと思います。今から 10 分程度、黙読でひとつ、10 分ほどちょっとこれから時間をとりますので、じっくり読んでいただいて、後ほどご意見をいただきたいと思いますので、お手元の骨子案に一通り目を通していただきたいと思います。よろしくお願いたします。

【資料黙読】

(小松良行委員長) 10 分を経過いたしました。大体お目通しはいただけたかなというふうに思いますけれども、委員長報告のスタンダードといたしますか、まず目的及び経過という、消防団の現状、そして現状における課題点、そして 4 番目に提言と続いてまいりますけれども、ここ長いので、まず 1 番の調査の目的及び経過、それから 2 番、そして 3 番の現状における課題点と、ここまでをちょっと 1 回、一くくりとしてご意見などをいただき、ある程度出尽くしたら、その後、今度提言内容、4 番のほうに進んでまいります。一旦ここで分けてご意見を聴取したいと思いますので、よろしくお願いたします。

まず、1番から3番までのところ、3ページの部分までのところで、何かここはこうしたほうがいいと、ここはこう訂正したほうがいいとかということでご意見がありましたら、ご発言ください。

(萩原太郎委員) ちょっと私も認識不足というか、わからないところがあるのですが、2番の、2番というと、1ページ目、2番、消防団の現状で、全国的な消防団の現状の1行目なのですけども、1行目の右のほうに行くと、地震や風水害等の災害防除などというふうに書かれて、防除って地震や風水害の、ちょっと私の認識では災害復旧とか、復旧とかというふうなイメージはあるのだけれども、地震や風水害の災害防除という、そういうふうな表現もあるのですか。

(宍戸一照委員) こういう場合は災害防災でないの。

(萩原太郎委員) 災害復旧、防除。土のうを積む、そういう防除ね。防除というのは土のうを積むということなのだ。

(羽田房男委員) 風水害のときに土のうを積んだり、そういうところというのは。

(萩原太郎委員) 防除だね。なるほど。そういう意味では防除ということもありだね。どちらかというところと復旧みたいなイメージがちょっと、うちのほうだと崖崩れとかあったときに消防団が来て、崖崩れ直したりしたものだから、そういう意味ではちょっと復旧にイメージをとられてしまいました。でも、地震の際の防除も……どうですか。

(宍戸一照委員) 次の行で地域防災のかなめとしてだから、書いてあるから。かなめとして活躍しており。

(萩原太郎委員) 細いところだったのだけれども、ちょっとイメージ的に復旧かななんてちょっと思ったものだから。

(小松良行委員長) 予防する、あるいは災害後の復旧というふうなときに、防除という言葉でいいのかなという疑問でございますか。

(萩原太郎委員) はい。済みません。そういう。ちょっとした細かいことだったのだけれども。

(小松良行委員長) いえいえ、何か適当な言葉があれば。

(羽田房男委員) その前の消火作業とありますよね。その後は、火災の予防活動、後ろに行きますと、2ページもずっと活動、活動、活動なのです。平日日中などの活動、効率的な活動、消防団の活動ということで、消火は活動ではなくて作業という、捉え方なのでしょうか。ここがちょっと、あれっ、どうなのだろうという感じもする。

(小松良行委員長) 消火は作業。

(羽田房男委員) 作業。一般的に消火活動という言葉は使うのですけれども、僕ちょっと消防団に入ったことないので、ちょっとわからないのですけれども、消防団は一般的に消火作業という言葉をお使いになるのか。消火のその作業と、消火だけというふうになると作業なのではないけれども、活動というと、もっと広い意味での作業プラスという。ちょっと……

(小松良行委員長) そうですね。いろいろそう言われれば。

(羽田房男委員) 僕消防団に入ったことないので、消防団はどういう言葉をお使いになるのかなというふうにちょっと思ったものですから。

(小松良行委員長) ちょっと、ではここはクエスチョンということ。

(宍戸一照委員) これから文脈を整理することになるので、あえて申し上げる必要性もないかと思えますけれども、とりあえず全体として、まず何々市では、何々市ではということが記載されているから、これからまとめの文章になれば、何々市では、何々市ではというような入れ込みは当然文章の中にも入ってくるので、何々市ではというような部分、冒頭の言葉というものは、例えばこの3ページを見れば、一番下の豊田市においてもとかというふうな、そういうふうな入れ込みはなくなってくるのかなと。あと、次のページに行けば、いろんな機能別消防団導入にあたって、四日市市ではとか、豊田市ではとかとずっと全部書いてあるから、これはまず委員長報告をまとめる際は消えてくる言葉でしょうから、文章の中に入れ込まれてまとめられてくるのかなと思うので、ここの3の現状においてという部分も考えてみると、(1)はあれだけでも、(2)においても鹿沼市においてはというような文章があるので、これがまとめの中に入れ込まれてくるのかなと、このまとめ方の中に。導入した自治体においては、例えば山間部においては住民自体が減少しているため、機能別消防団の確保も難しくなっているなど課題も浮上しているというふうな例えばまとめ方になるのかなと思われまじし、例えば(3)の新入団員の加入促進のための取り組みについてはというときには、真ん中辺の7行目かな、本市の各分団においては、参考人招致の際、説明であった事例としてというふうな書き方をしているけれども、普通まとめのときはこういうような文章は消えてくるのかなというふうに思ったところがございますので、この辺が文章の中に入れ込まれてくるのかなというふうな思いがいたしました、ざっと読んで。あとは、(4)については、全国的にも、女性消防団員は全国的にも年々増加し、割合が2.9%になっているが、本市においてはその比率は1%に満たない。各分団には所属しているが、1%に満たない状況であるので、より団員が確保できる体制を整えることが望まれるというふうなまとめ方になるのかななんて、ここの、皆さんのお考えもありませんけれども、四角の3までを見ると、そういうふうに入れていく必要があるのかなというふうに読み取りました。ざっと読んだときに。

(土田 聡委員) 今の宍戸委員の言っていることと変わらないのだけれども、これ委員長報告のまとめになると、これ大見出しや小見出しなくなってしまうのだよね。そうすると、最初はいいのだけれども、最後の7ページなんかは小見出し読まないといけないわけがわからないのだよ。しっちゃかめっちゃかになってしまうのだよ、これ。小見出しを本文の中に入れ込む、今言ったように入れ込まないと、これ文章として成り立たないのだよね。

(小松良行委員長) 見出しをとってしまわずと読んでいってしまったらという、後半のほうはね。後半のほうはこれから議題にしますが、確かにそういう面もありますね。

(土田 聡委員) だから、今言ったように、何々について、女性消防団についてはとか、機能別消防

団についてはということで何かまとめないと、いきなり鹿沼市ではとか、四日市市ではと言われると、わけわからないし、7ページのちっちゃい小見出しなんかは読まないといけない。

(小松良行委員長) おっしゃるとおりだと思います。

(土田 聡委員) 中身については文句はないのだけれども、そこだけちょっと課題あるかなと思ったのだけれども。

(宍戸一照委員) 私の意見としては、3番目までは、今土田委員もおっしゃったけれども、そういうような部分で書き方を、例として、何々市ではというような部分をとって、やっぱりその辺、文章の中に入れて込んでまとめられたほうがわかりやすいのかな。でないと結構長くなりますから。特に今土田委員もおっしゃったけれども、機能別消防団の導入にあたってはということは、豊田市とか四日市市とかと例を挙げて書かれているので、課題はやっぱり整理して文章の中に入れて込んで、機能別、O B別の機能別消防団員を導入するには、こういうふうな先進事例はあるけれども、課題はこうであるとかというようなまとめ方をしたほうがいいのかないかと思いました。私の意見でございます。これから当然そういうふうにもまとめられると思いますが。

(小松良行委員長) まとめ方も、そうですね。ですから、全国的など、現状があって、それで課題というのは、視察先等々でもこういうところを見て、こういう課題があってと言って、提言のほうではもうどこどこ地区の、何々地区のとかということじゃなくて、もうずばっと。

(宍戸一照委員) 新時代消防団計画策定に関する留意点、現在進められているが、留意点としてはこうであると。現状に、現在、本市の現状、本市においては、本市消防団はでいいでしょう。市町村合併に伴いと、つながりが深いということで、準備を進めていると。そうした中で留意点としては、機能別消防団員を導入するにあたっての留意点としてはこうだ、促進の取り組みについてはこうだというふうに文章の中に入れて込んでいけばいいわけでしょう。こちらの文章は。当然これは括弧でまとめて、わかりやすくまとめていただいたということだと思ふので。

(小松良行委員長) あくまでも、そうですね。これ前回のまとめに係る、これまず調査の振り返りの中で組み立てとしてこんなふうにはちょっと組み立ててみましたが、実際に今言ったように、委員長報告としてあそこでやる場合には、今言ったような整理の仕方というのですか、ありますよね。そのほうがもっとコンパクトにまとめることが可能になってくると思われまますので。ありがとうございました。

ほかに何か気になる点、何でもいいです。お気づきになったところをご発言ください。

(宍戸一照委員) あと、これ、またさっきの話ですけれども、ある程度今いろんな意見が出たとすれば、これをまとめて案文を1回ポストボックスにでも入れておいてもらって、この次、委員会のときに皆さんの意見出してもらえば、もうそれで決まるでしょうから。

(小松良行委員長) 可能な限り、きょうそのための時間ですので、どうか鋭意ご意見をいただきたいと思ひます。

ただいまの意見をちょっと踏まえまして、1番から3番までのところについてのご意見といたして、4番目からの提言内容のほうに移してまいります。なお、ある程度意見が終わった後で、全体を通してでもいいですけども、ご発言いただければと思いますが、引き続きこの3ページ以降の提言内容のほうについても、それでは皆さんのほうからご意見があればお伺いしたいと思います。

(羽田房男委員) つまり4ページから最後の8ページまでという、そういう。

(小松良行委員長) はい、さようでございます。

(宍戸一照委員) その前に1つだけ確認したいのだけれども、4ページ以降に移る前に、例えば(5)の被用者団員の活動や企業との関連性についてということなのだけれども、その23番、24番、どのような出動について、勤務時間中の火災等への出動などについて、どのような取り決めになっているかは消防団においても把握できていない。つまりこれは企業における取り決めだよ。企業内における消防団加入者と企業そのものとの取り決めだよ。

(小松良行委員長) はい。

(宍戸一照委員) そうすると、例えばこのところは、より明確にわかりやすくするためには、企業内においてとか、例えば出動について企業内においてどのような取り決めという、企業内というものを一言入れることによって、我々の趣旨というのはもう少し明確に伝わるのかなど。出動などについて企業内でどのような取り決めになっているか把握できていないというようなことをやっぱり。それで、例えばこの27と28を、27、協力を依頼する企業のトップの方々には快く返事してくれるものの、それが現場まで伝わっていないように感じると。それが、企業内においてどのような取り決めになっているか、消防団においても把握できていないというふうにすれば、コンパクトにまとまるのかなんとも思ったりしたところですけども。

(小松良行委員長) では、ちょっとこれ文言の整理をしていきます。

(宍戸一照委員) 企業内ということを一言書けば、より明確に我々議会の意思も伝わるのかなど。

(小松良行委員長) ちょっとほかにも、思いつくままで結構ですので。

(羽田房男委員) 7ページの女性消防団についてです。3番、3行目です。モットーにということで、その前に子育てや、仕事をしながらではなく、仕事を持ちながらというふうに。

(小松良行委員長) 仕事をしながらでなく、子育てや仕事を持ちながら。

(羽田房男委員) 子育てもしているし、仕事も持っているのだけれども、前述言われているように、できることをできる範囲でやりましょうをモットーに、子育てや仕事を持ちながらも、防火啓発活動や救助講習会など活躍しているのですよというふうに、より実態に合わせたほうがよろしいのではないかなと思いました。

(小松良行委員長) そうでしたね。視察先でもそのようなあれでしたね。ありがとうございます。

(宍戸一照委員) 4ページの27番から30番まで、この4行については、これは逆に言うと結論ではないのかなと思うのですけれども、制度設計の。だから、最後にこれらをまとめた最後に、例えば機能

別消防団とか、そういうのを、この③の機能別消防団、その前の②のOBの機能別、この辺を述べた上でこれを最後に、③の後に持ってくるべきではないのかなと。以上の点を踏まえ、本市において導入が想定される学生を含めた機能別消防団導入にあたっては、市全体や各地区の現状を踏まえ、果たすべき役割を明確にし、その役割に見合った人材が継続的に、十分検討すべきであると。これはそこに、①終わって、②終わって、③終わった後に来るべきではないのかなと思ったりもします。

(小松良行委員長) 機能別消防団の導入というところで出てきていますから、ここでうまくこちらにまとめていくというふうにしたほうがすっきりするのかもしれないね。

(宍戸一照委員) この場合はここに結論を、十分検討すべきである、結論を書いてしまっているから、間に②と③をまとめて押し込んで、最後に十分に検討すべきであると、そのほうがすっきりするのかなと読み取ったところでございます。私の意見としては。

(羽田房男委員) 提言は最後のほうに、5点でも6点でも結構ですから、提言の1点目とか何々、2点目、今宍戸委員がおっしゃったような形で、ここは流れの、今流れをお示しいただいて、文章の確定の部分ではなくて、いろんな部署、部署、部分的なやつをまとめですから、当然ですけれども、委員長報告の場合は、最後に結論としてということ、調査の結果とかという形の中で1点目、何点目の中に今宍戸委員がおっしゃったようなところも入ってくるということなので、最後はきちっと、5点でも6点でも、まとめという形でお示しをしたほうが非常にわかりやすいのかなというふうに思います。まとめとして。

5ページのところなんかも、本市においても、機能別消防団の確保が継続して可能な体制を整えるためにもというようにところも委員長報告のまとめのほうに入れていくといいのかなというふうに思います。課題の中の整理として提言というか、そういう形にしたほうが。機能別消防団についてもそうですし、学生の機能別消防団についても、現実はこちらです、こちらです、こういう現状をずっとやってまとめはするのかな。

(小松良行委員) そう考えると、正副、取りまとめしておいてあれなのだけれども、確かに7ページ、先ほど今羽田委員から四日市市、サルビアの話が出たときも、一番下のところにもこれ同じことが再掲されてしまって、両方に書かれてしまっていますものね、これ。女性団員の紹介をしつつ、またこっちで啓発のところでもまた同じことが出てきたので、もうちょっとこの辺も整理が必要かもしれませんね。

(宍戸一照委員) 5ページの②については、例えばこのOB団員の機能別消防団員導入については、同じような内容が継続して、羅列して書いてあるのだよね。例えば豊田市はという部分で、OB消防団、OB組織に順次機能別を取り入れていると書いてあります。あと、それに本市においてもとあるので、ここはやはり本市はという部分で、都市部から山間部の広い地域を抱えており、地区によって状況はさまざまであるが、その次の2行を省いて、各地区ごとに状況は異なり、消防団OBについても、飯野地区の纏隊のようなOB組織が組織されている地区やされていない地区などさまざまであ

ると。なので、機能別消防団の確保の継続的な体制を整えるためにもというふうな部分のまとめ方のほうが、上の文章と今の下の文章が同じ内容書いてあるので、ここはまとめられたほうがいいのかというふうに思いました。

あと、6ページの②と③と④というの、同じ広報活動でSNSを活用したというふうに書いてあるので、そこは広報活動としてSNSなどを活用してというような文章にまとめればいいのかなど。同じ内容について書いてありますから、特に2と4については。鹿沼市と四日市市ということで。若い世代の入団が促進できるような方法に変えるべきではないかと、行うべきではないかというふうに絞って。あと、①のほうの恩恵、割引、優待制度と、この2項目ぐらいに絞れば、この文章はあれなのかというふうに、促進の取り組みについては。

私まだ言わせてもらおうと、7ページ、(4)と(6)ですか、(4)の女性消防団員については、防災教育という観点から、(6)で言っている四日市市では女性のサルビア分団がというような部分の2行、これは(4)の上で言っているので、例えば女性団員の活躍として、消防、防災に係る教育というような部分においては重要な、有効な手段になるというふうに書いて、例えば啓発としては防災施設の充実とか、(6)は防災施設の充実とか、啓発として、そのためには消防の施設内にそういうのを設けるべきではないかというような分け方のほうがいいのかなど。女性団員の役割として、そういうようなものは十分に機能しているし、有効であると。

(粕谷悦功委員)ずっと読んでいって、1ページ目で昭和27年には200万人を超えていた全国の団員数、今から65年前の話なのだ、これ。これは、昭和27年で200万はどういうことで選んだのだい。そこが200万が一番多かったの。65年前。そこからずっと減ってきているのかい。

(小松良行委員長)そこがピークというふうに認識したところでしたが、もうちょっと直近のというか、ぐんと減ったところ、うんと高いところからじわじわ減ってきたのでなくて、がくんと何か……

(粕谷悦功委員)だから、余り27年前の、昭和27年、65年前ということではなく……

(小松良行委員長)10年前とか20年前。

(粕谷悦功委員)余り表現すると何かだからね。だから、消防団員数、過去で最大だった時代は200万人を超えていたみたいだ。だって、何か65年前の200万人という、ちょっと何か、ちょっとあれだな。どうかなとは思ったね。表現方法だけれども。

(小松良行委員長)ちょっとこれもいろいろ数字見て、検討してみます。

(粕谷悦功委員)あと、(2)の本市の現状、全国的な消防団の現状というのは実態がこういうふうに書かれているのだ、ずっと。これはいいけれども、本市の現状、ここが、2ページ目の6行目まで、ここまでが本市の現状だと思うのだよね。7、8、9、10、11が新時代消防団計画の策定は重要な役割を果たすものであるという、ちょっと現状ということよりも、計画の策定をすることは重要な役割を果たすものという、ちょっと現状ということの内容ではなくて、その現状に対する取り組みみたいな内容の表現になっているのだな、ここ。だから、これが、現状というのは現在あるべき姿の内容を

文章化した内容で、こうですというふうにする必要があるのではないかなと思ったね。

それと、現状における課題点と出てくるのだけれども、(1)、(2)というのは新時代消防団計画策定に関する留意点なのだよね、これ。全部こう留意点になっているのだけれども、課題という捉まえ方からすると、こういうことが課題だという内容、機能別消防団導入にあたっての課題かな、留意点なのかな。そこがちょっとこの文章の内容でそんなふう感じたね。この留意点という内容は。

(小松良行委員長) 現状における課題点としておりますから……

(粕谷悦功委員) だから、その課題、課題はこうなのだと。その課題を取り組みするにあたっては、こういうこと、こういうこと、こういうことを、あるいは視察なんかで調査したこういうことなどを十分考慮して課題解決に取り組むという……

(小松良行委員長) 考慮していく、そうですね。おっしゃるとおりです。

(粕谷悦功委員) そういう内容になったほうがいいのではないかなと思ったよね。大きくはそんな感じだったかな。

(羽田房男委員) 粕谷委員がおっしゃった200万人というのは、平成29年11月28日の民友に出ている消防団員はというところのピークが1952年には200万人以上いたが、ことし4月時点では約85万人に減少している。どこかで読んだ文章だなと思って、その文章です。

(小松良行委員長) 今までのちょっとまとめてみますと、さまざま指摘の点ありがとうございました。前回までの取り組み、現状とか、それから機能別消防団員、それから新入促進、女性防火クラブの件や企業との関係とかということでの大きなくくりの中で、今回骨子案としてまとめてきていたわけですが、この分け方にちょっととらわれ過ぎた感があって、そのために重複して書かれている点だったり、先ほど宍戸委員からも指摘がありましたが、こういう課題に対してこういう提言というふうにすっきり読み取れない部分、あとはきちんとご理解いただくために段落化しましたけれども、実際に委員長報告を読むときにはこの1番とか、(1)とかという部分はないわけなので、実際にしっかりと委員長報告としての読み本としての体にいま一度直していくという作業をこれからさせていただきたいと思います。ただいまの皆さんからのご意見を頂戴しましたものを参考にしながら、そして先ほどご提案がありましたが、できた時点で1回、このような内容のものができたので、ちょっとお目通ししてくださいということで、次回、1回読んできたもので、ここでまたやるというふうな流れで、ちょっとこの間、詰めていければなというふうにするのですけれども、いかがですか。あと、特に事実関係としてとか、あるいはこういう点ちょっと見落としているのではないかなとあれば、ぜひこの機会にお願いはしたいのですけれども。今委員長報告の委員長、副委員長でのとりあえず骨子案としては十分今不備な点伺いましたので、あといわゆる読み本、読んできちんと委員長報告となるような体裁のものにこの後ちょっと変更してまいりたいと思いますが。その点を含め、何かこういう視点は抜けていたのではないのかとか、こういう提言のほかにこういうこともあったらどうか、何か重要な点が抜けていたりなんかしていないかなと思って、もしお気づきであればご指摘いただきたい

と思います。

(小野京子委員) 前に報告、委員長報告まとめに、これまでの内容という中で、8ページの最後、4番目に、そのため、教育、啓発を同時に行いと書かれていますけれども、こちらの4ページにはPR施設を併設し、未来を担う子供たちへの教育と啓発をあわせて行えるようにするべきと書かれていますので、教育、啓発を同時に行えるよう、最後のほうに、未来を担う子供たちへの教育と啓発を後に持ってきたほうが何かいいような気もするのですけれども。こちらのまとめにはそう書かれていたので。その辺をご検討いただければ。

(小松良行委員長) ちょっと検討してみます。ありがとうございます。

ほかにございますか。

(粕谷悦功委員) これ現状、この消防団の現状で、全国的な消防団の現状と本市の現状まで来ていて、次に現状における課題になっているのだけれども、現状における課題というのを、その課題の内容をぴしっとうたって、ただその課題に対して、課題の内容に対してどうあるべきか、あるいは新時代の消防団の組織をつくるべきだとか、機能別消防団を導入すべきだという、そういうスタイルにしたほうがいいのではないかな。ここ課題点となっているのだけれども、課題点なのだけれども、例えば新時代消防団計画については、現場の団員が活動しやすい環境づくりとか、組織、装備の実態を踏まえて、アンケートを実施して、その集計を精査し、こう。これで結論まで出しているのね、ここで。だから、これ課題だから、課題とその課題に対する取り組みということならいいけれども、課題としてるのであれば、やっぱり課題を出して、その後、課題に対してのあるべき姿はこうだという、こういうふうにして流れ的にはしたほうがいいのではないかな。これ課題を言っているけれども、何か見直しを行うことが重要だという提案というか、議会の考え方もここは入っているのだけれども、その辺をうまく流れをつくったほうがいいよね。

(小松良行委員長) そのほうがすっきり、聞いていても、これに対してこれ、これはとって。

(宍戸一照委員) 今粕谷さんからお話があったけれども、今回の調査目的は消防団の充実強化についてが調査項目なわけだから、まず現状認識した上で、粕谷さんがおっしゃるとおり、消防団の充実強化策として機能別消防団、あとは新入団員の加入促進、あとは女性団員の活用とか、あと企業などの被雇用者の活動の迅速化が挙げられるということがまず大きな調査の中身としてまとめられる部分でしょうから、今粕谷さんがおっしゃったように、それに対する我々の見解はこうですよというふうなまとめ方が必要なのではないのかなと。

(小松良行委員長) おっしゃるとおりでございます。

今かたがたいろいろ皆さんからご意見いただきましたが、では次回、そのようなことでちょっと委員長報告のような書き下しで、ただいまご指摘の点を考慮しながら、いま一度全体を見て再考したいと思います。

皆様には一応次回を4月の19日というふうにご案内していましたが、ちょっと時間的にあれなので、

何とかそこまでは、今のご指摘の点を踏まえて、成文化したいと思いますが、直前にならないとちょっと、あらかじめレターボックスに置いていて、見ておいてくださいまでの時間は持てないかもしれませんので、鋭意努力はしますけれども、ふくみおきいただければと。もし18、17日中ぐらいにできていれば、レターボックスに入っているから、ぜひ、では一旦読んでいただきますねなんていうことが可能かもしれませんが、もしかするとちょっと間に合わないかもしれませんので、そのときは19日の日に、きょうのようにお示しをして、またいろいろ意見をいただいて、調整を図っていくということにしていきたいと思いますが、ちょっと大幅な見直しをしていくことでございますので、ちょっとご理解をいただければというふうに思います。

ほかになれば、一旦この辺できょうのところの、たくさん宿題をお預かりしましたので、鋭意努力してまいります。

その他でございますけれども、ただいまちょっとお話をしましたが、次回の日程は19日1時半からということでご案内を申し上げ……

【「午前」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 10時。

【「10時ですよ」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 済みません。10時からということでご案内をいたしておりますが、ご確認願いたいと思います。

なお、その次の日程も改めて決めておかないとそろそろあれだということもあるので、皆さんにちょっとお諮りをしたいのですが、19日、その後また、皆さんその間に、19日の後、オリパラの特別委員会視察があったり、ゴールデンウィークを挟んでしまったり、その後がいわゆる議会報告会があったりということになりまして、ちょっと間を置くこととなりますけれども、5月の14日月曜日なのでございますが、ちょっとこの日を19日のその次の常任委員会の日に当てたいと思っているのですが、皆さんご都合はいかがでございましょうか。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 大丈夫ですか。

【「何時からですか」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 10時からでよければ10時からというふうに考えておりますが。

【「はい」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) では、済みません。ほかの日程などもあるので、早目にといいまして、ご提案申し上げましたが、次々回ですね、その後は5月の14日、ある程度こちら辺のところまで格好が整ってくればいいなというふうに努力してまいりますので、また次回、次々回とも皆さんからいろいろご意見を頂戴できればというふうに思っております。では、そのように決定をさせていただきます。

皆さんのほうからその他で何かございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(小松良行委員長) 1時間も過ぎましたので、日程は平成30年4月19日が次回、次々回は5月14日と
いうことでよろしく願いをいたします。

以上で総務常任委員会を終了したいと思います。きょうはどうもありがとうございました。

午後2時30分 散 会

総務常任委員長 小松 良行